

令和6年は、全国の延べ184ダムで事前放流を実施！

～洪水に備え、既存ダムを活用し容量を確保～

令和2年度以降、全国のダムで事前放流の実施体制を整え、洪水に備えています。
令和6年（令和6年12月末時点）は、全国の延べ184ダムでの事前放流の実施により、約5.7億m³の容量を確保し、台風等による洪水に対応しました。

＜令和6年における事前放流の実施状況（概要）＞

	令和6年	（参考）令和5年
治水等多目的ダム	101ダム	87ダム
利水ダム	83ダム	94ダム
合計	184ダム	181ダム

【別紙】

- ・ 令和6年における事前放流の実施状況（総括）
- ・ 事前放流の実施状況と洪水調節等による効果（久慈川水系、緑川水系）

（参考）関連資料及び用語解説は、下記のホームページをご覧ください。

○ 既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会議

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kisondam_kouzuichousetsu/

○ 既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kisondam_kouzuichousetsu/pdf/kihon_hoshin.pdf

【問い合わせ先】

水管理・国土保全局 河川環境課 流水管理室
企画専門官 柴山慶行（内線：35472）
水利・流水企画係長 西村文二（内線：35483）
TEL 代表：03-5253-8111 直通：03-5253-8449



令和6年における事前放流の実施状況(総括)

- 令和6年は、全国の、のべ184ダムで事前放流を実施したことにより約5.7億m³の容量を確保し、洪水に備えた。(令和6年5月27日～令和6年11月9日)
- そのうち、利水ダムではのべ83ダムで事前放流を実施したことにより約3.0億m³の容量を確保。
- なお、台風第10号による出水では、全国のダムで事前放流の実施体制を整えた令和2年以降、一出水で過去最多となり、のべ136ダムにおいて事前放流を実施し、洪水に備えた。

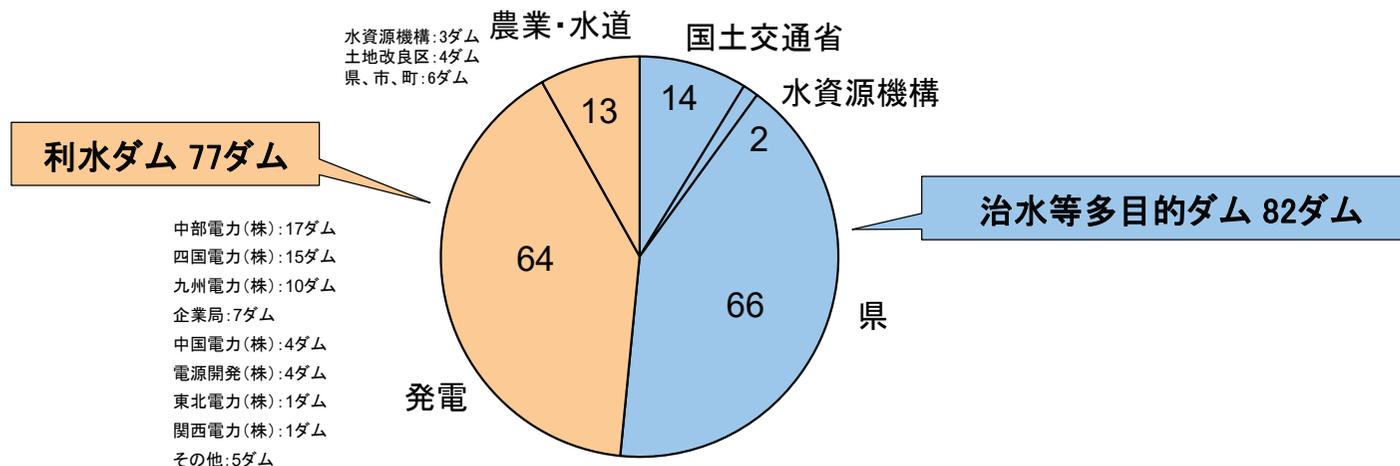
＜令和6年に事前放流を実施したダム数と確保容量の内訳＞

令和6年12月末時点

名称	区分	令和6年の主な降雨										合計 (ダム数の括弧書きは重複除きの数)
		5月27日からの大雨	6月17日からの大雨	6月21日からの大雨	7月10日からの大雨	7月25日からの大雨	台風第5号(8月9日～)	台風第7号(8月16日～)	台風第10号(8月26日～)	9月20日からの大雨	その他	
治水等多目的ダム	ダム数	4	3	4	4	2	4	5	68	1	6	101(82)
	確保容量(万m ³)	2,700	700	400	100	100	100	300	19,100	100	2,500	26,100【2.6億m ³ 】
利水ダム	ダム数	4	1	3	2	0	2	1	68	0	2	83(77)
	確保容量(万m ³)	2,300	20	100	200	0	100	10	24,400	0	3,300	30,430【3.0億m ³ 】
合計	ダム数	8	4	7	6	2	6	6	136	1	8	184(159)
	確保容量(万m ³)	5,000	720	500	300	100	200	310	43,500	100	5,800	56,530【5.7億m ³ 】

＜令和6年に事前放流を実施した159ダム(重複除き)の管理者＞

※この他、上記の主な降雨に関連し「すでに事前放流の容量を確保し、水位が低下していたダム」が全国で、のべ383ダムで容量を確保(約19.5億m³)

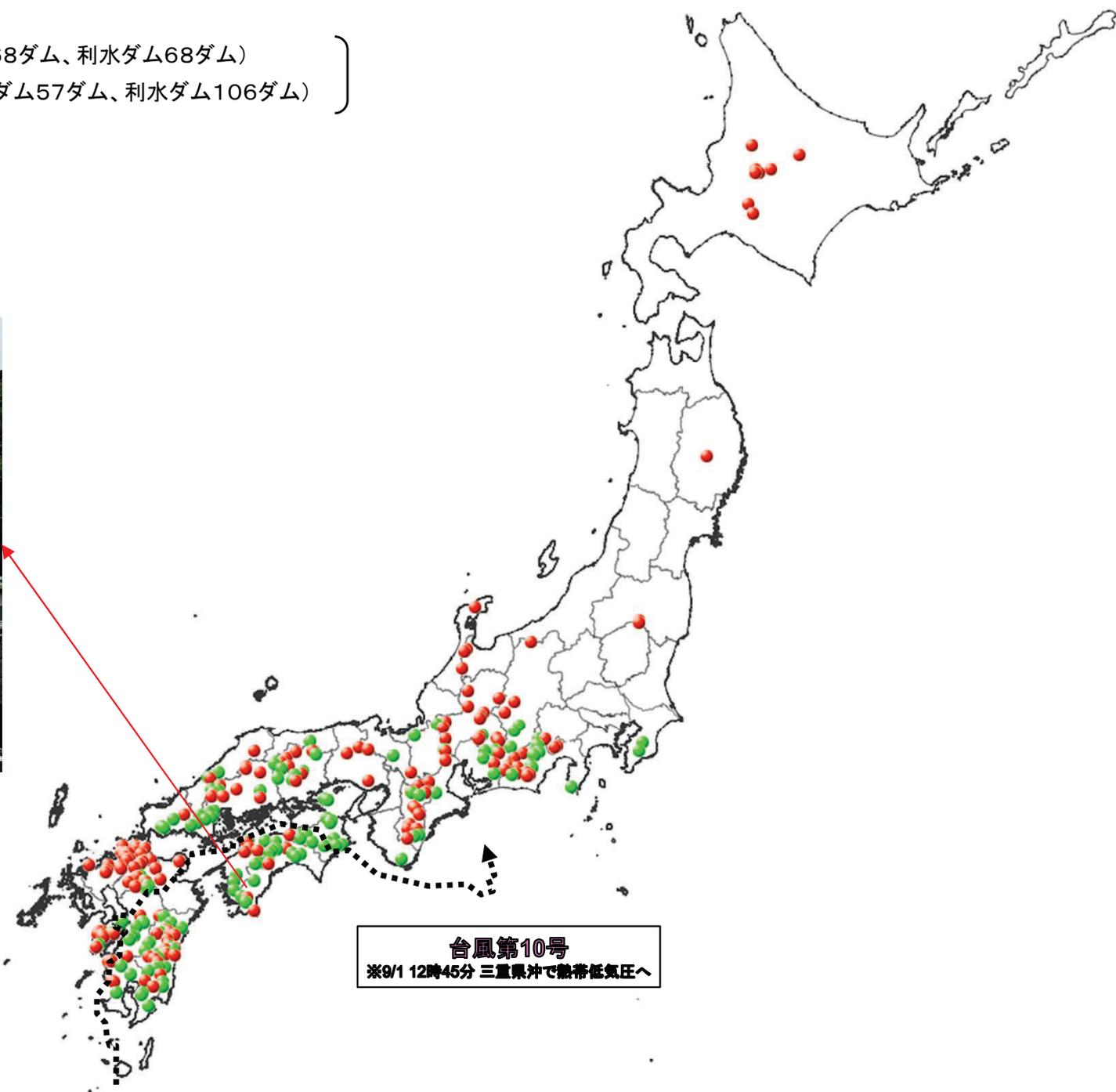


令和6年 台風第10号に伴う事前放流実施状況

○事前放流の基準に到達 299ダム

- 事前放流を実施したダム 136ダム(多目的ダム68ダム、利水ダム68ダム)
- 既に水位が低下していたダム 163ダム(多目的ダム57ダム、利水ダム106ダム)

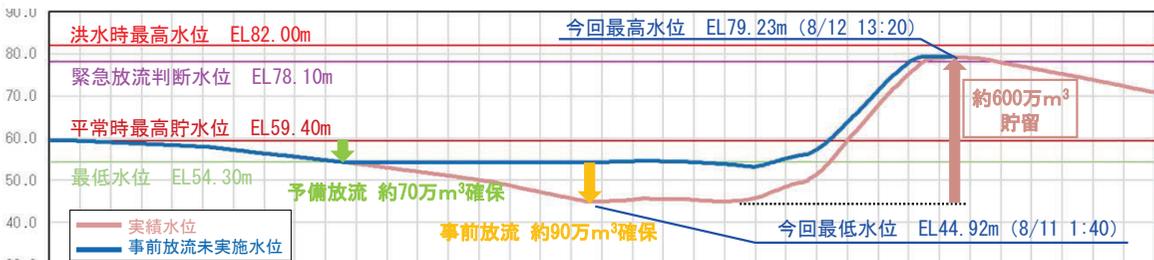
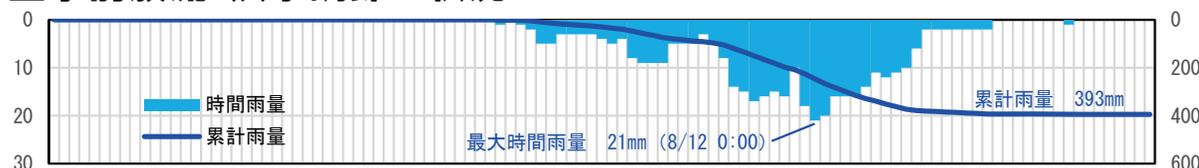
事前放流実施状況



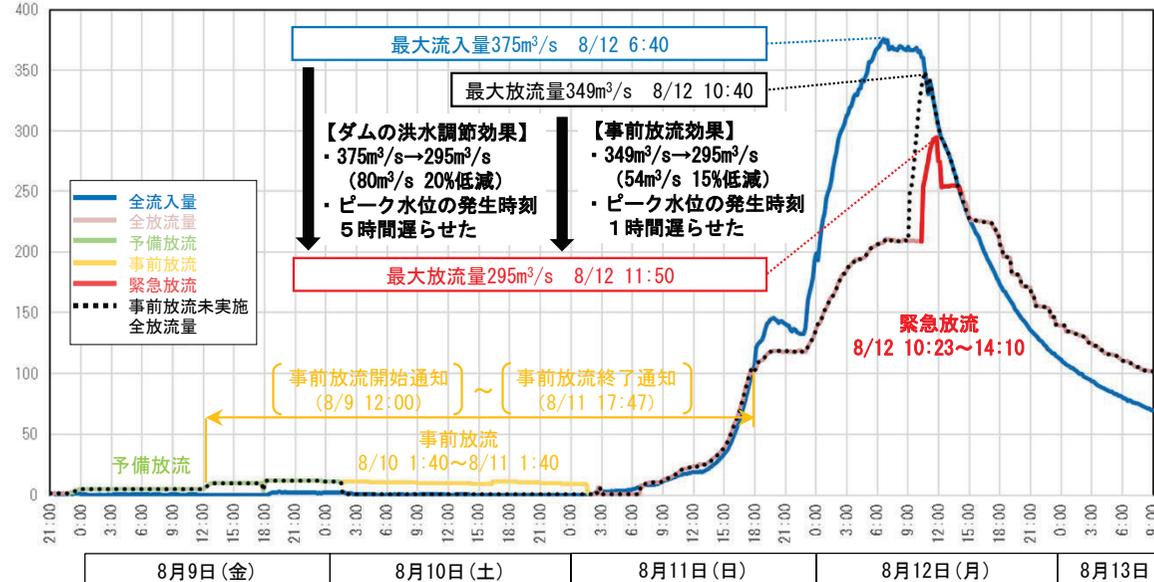
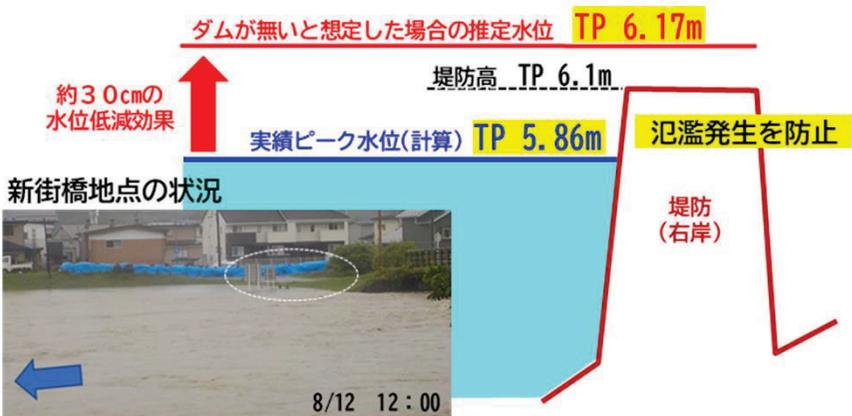
- 久慈川水系長内川(二級河川)の滝ダムでは、台風第5号による豪雨に備え、予備放流を実施し洪水調節容量600万m³を確保、更に事前放流により約90万m³の容量を追加で確保し、洪水調節を実施した。
- 計画を上回る大雨により緊急放流に移行したものの、洪水調節により洪水のピーク時の375m³/sを295m³/sへ80m³/s(約20%)低減させ、下流河川の水位低減、洪水による浸水被害防止に効果を発揮した。
- 上記洪水調節によりピーク水位の発生時刻を約5時間遅らせ、水防活動や避難行動に要する時間を確保した。
- また、事前放流の効果として、最大放流量を54m³/s抑え、緊急放流の開始時刻を約1時間遅らせた。
- 事前放流及び洪水調節により、新街橋地点において約30cmの水位低減効果があり、氾濫発生を防ぐことができた。



事前放流・洪水調節の状況



長内川 新街橋地点の水位低減効果

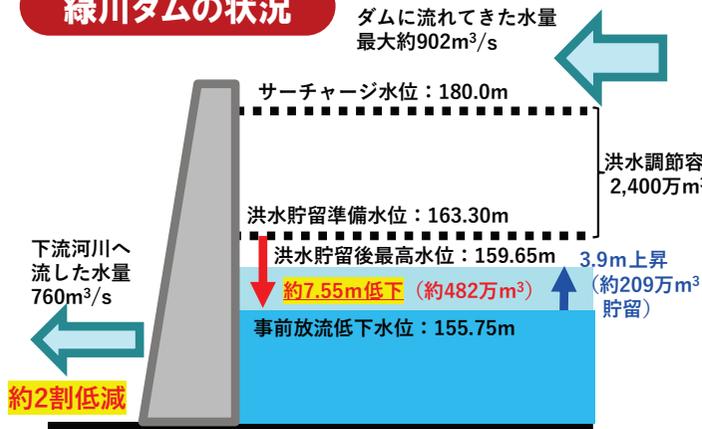


- 台風第10号の接近により、緑川ダム上流域において398.8mm(8月27日14時～31日6時)の累加雨量を観測。(参考:令和2年7月豪雨:377.3mm、令和4年台風第14号:483.2mm)
- 洪水調節容量2,400万 m^3 に加え、事前放流によりダムの貯水位を7.55m低下させ、更に約482万 m^3 を確保した。
- 緑川ダムでは、最大流入量約902 m^3/s を観測したが、洪水調節を実施しダムに洪水を貯留したことから、下流へ流れる洪水の量を約760 m^3/s に抑え、約2割低減した。
- これにより、ダム下流の中甲橋地点^{ちゅうこうばし}において約23cmの水位低減効果を発揮することができたと推定される。

位置図



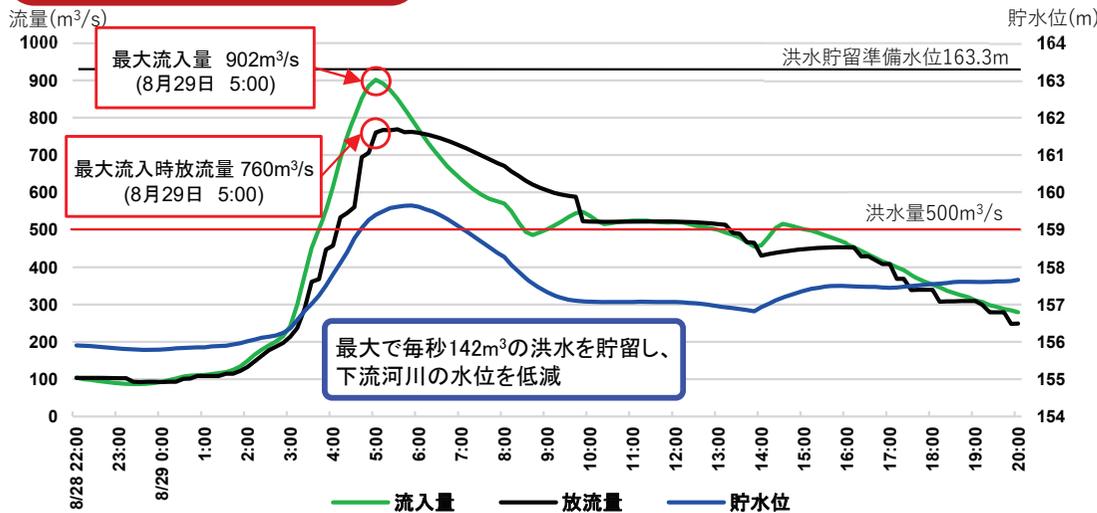
緑川ダムの状況



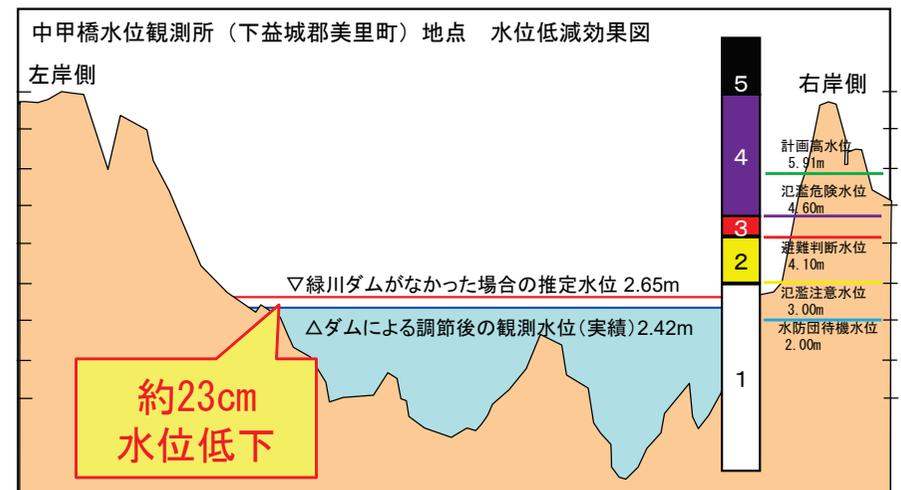
緑川ダムの貯留状況



緑川ダムによる洪水調節



水位低減効果(中甲橋地点)



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。